

日本人は、どうやって音楽を語ってきたのか。 その歴史を、名著100冊を抱えてひたすら読み解く！

11/17
配本



ペリー来航から軍楽隊、クラシック、「リンゴの唄」、戦後ジャズ、各種音楽雑誌、ビートルズ来日、ニューミュージック、歌詞論、プレイリスト、サブスク、そして未来まで――。

1876年から2025年までを30年ずつに区切り、それぞれの時代の音楽を取り巻く言説の配置を語る「通史」と、その時代に出版された代表的な「音楽の本」を20冊選んで解説する「ブックガイド」によって構成される、圧巻の1冊！

【著者プロフィール】

◎栗原 裕一郎 (くりはら・ゆういちろう)

1965年生まれ。評論家。主な著書に「<盗作>の文学史」(第62回日本推理作家協会賞受賞)、共著に『村上春樹の100曲』などがある。

◎大谷 能生 (おおたに・よしお)

1972年生まれ。批評家、音楽家。主な著書に『ジャズと自由は手をとって(地獄)に行く』『持ってゆく歌、置いてゆく歌』などがある。

ニッポンの音楽批評 150年100冊

著者：栗原 裕一郎、大谷 能生
定価2,750円 (本体2,500円+税10%)
四六判／448ページ

【CONTENTS】

まえがき

- 第1章 1876年～1905年 「音楽」は国家事業なり～幕末と明治の音楽批評
- 第2章 1906年～1935年 内面化と大衆化～「クラシック」の受容と日本のポップスの変容
- 第3章 1936年～1965年 変わったこと、続いたもの～戦前・戦中・戦後の音楽批評
- 第4章 1966年～1995年 批評する主体の確立から解体へ～サブカルチャーとしての音楽と批評
- 第5章 1996年～2025年 対談 アーカイヴィングと「再歴史化」への欲望
- 付録 音楽雑誌リスト

併売お薦めの同著既刊



番線印	タイトル	ご注文数
	<p>【新刊／書籍】 新刊指定締切 11/2(火)</p> <p>ニッポンの音楽批評150年100冊</p> <p>定価2,750円 (本体2,500円+税10%) ISBN978-4-8456-3677-8</p>	冊
	<p>【既刊／書籍】</p> <p>村上春樹の100曲</p> <p>定価1,980円 (本体1,800円+税10%)) ISBN978-4-8456-3239-8</p>	冊